

令和3年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
1	授業実践力の向上	①	教科の単元計画ファイル作成を行う。教員は年間指導計画、指導要領のポイントがわかる資料、児童生徒のアセスメントをあらかじめ綴じてあるファイルを用意し、単元計画の際にはそれを参考にしながら計画を立て、授業実践を行い、結果を記録し、次回の授業につなげる。	学習支援課	年間指導計画が策定されて、サーバーに保存してある。単元計画は教員独自にファイリングしてあったり、サーバーに記録してあったりするが、形式は決まっていない。指導要領を読み込んで計画を立て、実践・評価を行い授業改善を図る取り組みが求められる。	【努力指標】（教員） 7月と12月にアンケートを取り、授業計ファイルを作成して授業改善に取り組んでいる教員の割合を測る。 4：ファイルを作成し、授業改善ができていない。 3：ファイルを作成し、ある程度授業改善ができていない。 2：ファイルを作成したが授業改善ができていない。 1：ファイルを作成していない。	アンケート結果が A：4と3合わせて80%以上 B：4と3合わせて70%以上 C：4と3合わせて60%以上 D：4と3合わせて60%未満 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員アンケート調査
		②	ICT研修を行い、教員のICTスキルを向上させ、日々の授業でGIGAスクールで整備されたiPad端末を使用した実践を行う。	学習支援課	学校にはiPadは4台運用している。数が少ないため、授業で使っている教員・児童生徒は限られている。GIGAスクールの理念を知り、機器の操作方法に習熟し、授業で効果的に利用することが求められる。	【努力指数】（教員） 4月、7月、12月に教員のICT活用指導力チェックリストで教員のICTスキルが向上しているか測る。	チェックリストの教員の合計得点が4月に比べて12月段階で A:120%以上 B:115%以上 C:110%以上 D:110%未満 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たないことが予想される場合は、取り組み体制を検討する。	チェックリスト調査
2	組織的・体系的なキャリア教育	①	お手伝い・家事マスターチャレンジを企画する。教員は児童生徒が意欲を高められるようにキャリア教育の視点を持って指導する。家庭へは進路だよりを通してお手伝い・家事分担の種類や意義を周知する。	学習支援課	昨年度までキャリア教育の視点を持って指導や授業を行ったが、家庭との連携を深めるまでには至らなかった。今年度は、昨年度同様キャリア教育の視点を持った指導を継続しつつ、家庭とも連携しながらキャリア教育をして自己有用感を高めたり社会の一員として働く意識が持てるような取り組みが求められる。	【満足度指標】（保護者） 7月と12月にアンケートを取り、児童生徒に家庭での役割があると感じていると答えた保護者の割合を測る。 4：大変あると感じる 3：ある程度あると感じる 2：あまり感じない 1：全く感じない	アンケート結果が A：4と3合わせて80%以上 B：4と3合わせて70%以上 C：4と3合わせて60%以上 D：4と3合わせて60%未満 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者によるアンケート調査 7月と12月
3	安心・安全な学校作り	①	学校安全としての「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3領域について、自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、社会の安全に貢献できる資質・能力を育めるよう取り組む。	生活支援課	学校生活や日常生活の中で想定される安全管理、安全意識への理解を深め、実践的な態度が身に付けられるような支援や授業を行うことが求められる。	【努力指標】（教員） 「安全に関する指導の内容例」を基に、学部毎で取扱う項目を検討し、アンケートにて取扱った割合を評価する。	学部毎に取扱った割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成目標B以上】	C以下の場合は原因を分析して、取り組みの見直しを図る。	学部によるアンケート調査（7月・12月）
4	業務の効率化	①	書類や電子データの整理、優先順位を決めて業務に取り組むこと、今年度の反省を生かし来年度の書類を準備しておくことなど効率的に業務を行う工夫をして業務に取り組む。	全教職員	職員減による校務分掌の課の統合など厳しい状況ではあるが、その中でいかに効率的に業務を進めていくことが求められている。	【努力指標】（教員） 8月と1月にアンケートをとる。 4：工夫をして業務に取り組むことができ大幅に効果があった。 3：工夫をして業務に取り組むことができやや効果があった。 2：工夫をして業務に取り組むことができたが効果なかった。 1：工夫をして業務に取り組むことができなかった。	アンケート結果で「工夫をして業務に取り組むことができ効果がなかった。」と答えた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員アンケート調査